

パブリックコメント(子ども)意見要旨

資料9

1. パブリックコメント(子ども)での自由意見

「こどものけんりってなあに？」第1号を見て寄せられた、子どもからの自由意見 881 件の内訳は下記のとおり(※速報値であり、今後修正となる可能性があります)。

	ページ	① 未就学児	② 小学校 1年生	③ 小学校 2年生	④ 小学校 3年生	⑤ 小学校 4年生	⑥ 小学校 5年生	⑦ 小学校 6年生	⑧ 中学校 1年生	⑨ 中学校 2年生	⑩ 中学校 3年生	⑪ 高校生 世代	⑫ その他	合 計
良いと思う	2	0	0	0	0	4	28	49	28	19	0	4	0	132
特になし		0	0	0	0	1	8	8	5	5	0	0	0	27
前文	3	0	0	0	0	1	0	7	0	0	0	1	1	10
子どもにとって大切な子どもの権利	3	0	0	0	0	0	2	8	2	19	0	4	0	35
子どもの居場所	4	1	1	0	0	15	10	52	10	3	0	0	0	92
子どもが意見を表したり参加すること	5	0	1	0	0	2	11	46	15	7	0	2	0	84
子どもの安心・安全	7	0	0	1	0	3	10	30	12	4	0	0	0	60
子どもの権利を知ること	8	0	0	0	0	5	6	19	6	8	0	4	0	48
いじめを止めること	8	0	0	0	0	5	19	37	10	3	0	3	0	77
子どもの相談	9	0	0	0	0	2	15	28	10	2	0	0	1	58
すべての子どもへの支援	11	0	0	0	0	0	0	6	2	1	0	0	0	9
おとなになるための支援	11	0	0	0	0	0	2	3	2	1	0	1	0	9
条例の考えを実現するための取り組み	12	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6
大人の役割	12	0	0	0	0	1	6	7	1	1	0	0	0	16
その他	13	2	0	1	0	20	25	89	40	22	0	5	14	218
合 計		3	2	2	0	59	145	392	143	95	0	24	16	881

自由意見回答者数	3	2	2	0	57	116	270	99	74	0	12	14	649
アンケート回答者数	3	3	2	0	111	162	390	156	134	1	18	16	996
	100%	67%	100%	0%	51%	72%	69%	63%	55%	0%	67%	88%	65%

意見要旨

1. 良いと思う等

子どもの権利についてあまり知らなかったが大切だと感じたという声や自分たちの権利を守ってもらえるのが嬉しい、安心するという声が多く寄せられました。

【良いと思う・大事だと思う】

- ・そこまで権利についてよく考えてはいなかったけどこれを見て権利が大切だということがあらためてわかった。
- ・初めて知って子どもの権利条約は、子どもがどれだけ大切なものなのかを教えてくれる。みんなに子どもの権利条約が伝わってほしい。
- ・もし子どもの権利がなかったら、楽しく生きられている子が、今より少なくなっているかもしれないから、子どもの権利は、重要だと思う。
- ・ここでしっかり子どもの権利条約を定めておかなければ武蔵野市は雰囲気が悪い街になってしまう
- ・子どもの権利があることは知っていたけど、条約や条例の内容は詳しくは知らなかった。色々な視点から作られていて僕達の生活にも深く関わっていた事を初めて知った。
- ・今まで自分は関係あることなのだろうか？と思っていたが、手紙を見て武蔵野市のこどもたち全員が必要だし、重要なことだと思った。
- ・子どもにとって大切な権利がとっても納得できる内容でとっても安心していいと思う。この内容は全部子どもから思いや願いを聞いたものでとてもいいなとも思った。
- ・私達が大人になったときにこのような取り組みを受け継いでいきたいと思った。
- ・子どもの権利についてわからなかったけどこどものけんりってなあに？を見て条例を作って欲しい。

【嬉しい、安心する】

- ・自分たちの権利を守ってもらえる条例ができると知って安心した。
- ・私達子どもに対する権利を考えてくれるのはとても嬉しいと思った。
- ・子どもの権利などは子どもの意見などを取り入れて作ってくださるのは嬉しい。
- ・条例を作るのに私達子どもに意見を聞いてくれるのは、とても嬉しい。
- ・このような「子どもの権利」があれば、どんな人も安心して、快適に過ごせると思った。
- ・自分たちの暮らしが、楽になっていくように感じてとても嬉しい。

【願い】

- ・条例の考えが実現してほしい。
- ・子どもすべてがやさしい心をもつようにしてほしい。
- ・誰もが安心して未来を目指せるように一人ひとりの個性を尊重できる社会になったら良いと思う。
- ・大人には子どもを守る義務があり、子どもは守られるために自分ができることや自分で考え行動することが大切であり、子どもは必ずルールを守らなければいけないと思う。
- ・武蔵野市が子どもにやさしいまちになることを願っている。
- ・自由に楽しく幸せに、が大事だと思う。

- ・子どもの状態に合わせて色々な権利を達成できたら良い。一気にすべての権利を行おうとしないで、一つ一つ関連づけていけたらいい。
- ・十分な子どもへの対策がされることを願っている。
- ・「子どもにとって大切な子どもの権利」に書かれているような権利は当たり前のようで実は守られていなかったり、それについて苦しんでいる人は年齢を問わずたくさんいると思うので、早く条例が明確に確立して、すべての子どもがのびのびと暮らせる武蔵野市になって欲しい。
- ・虐待や虐待死のニュースを見て親の勝手さや、世間の冷たさにショックを覚える。条例を通して子どもの権利が広く認知されて、嫌なニュースが無くなって欲しい。

2. 前文

「子どもの権利を守ること」「子どもにやさしいまちを目指すこと」など、特に小学校6年生から意見がありました。

《主な意見》

- ・自分たちの権利を守ってもらえる条例ができると知って安心した。
- ・子どもの権利を守るとは、重要だと考える。
- ・条例を通して子どもの権利が広く認知されて、虐待などの嫌なニュースが無くなってほしい。
- ・子ども一人一人が個人として尊重されることはとても大事だと思った。大人も積極的に取り組んでほしい。
- ・子ども一人ひとりが人間として大切にされることはいいと思った。大切にされないと将来が大変なことになる。
- ・武蔵野市が子どもにやさしいまちになることを願っている。
- ・どうやってやさしいまちにしていけるのか具体的に説明してほしい。
- ・前文に幼稚園生もわかるような説明を入れたほうがよい。

3. 子どもにとって大切な子どもの権利

中学2年生を中心に、休む権利や、意見を表し参加する権利、差別されない権利に対する意見が多く挙げられました。「子どもの権利を守ること」「子どもにやさしいまちを目指すこと」など、特に小学校6年生から意見がありました。

《主な意見》

【休む権利を大切にしてほしい】

- ・休むときに親の目があるからと言って言い出せない人もいると思うので、親に言わなくても休めるようにした方が良くと思う。
- ・辛いときは休んでもいいことを知るといのはとても大事だと思うし、余裕を埋めるような仕組みを作るのが大切だと思う。
- ・嫌なことがあったり、体調が悪いときなど、休みたいときに休める環境をつくるのが大切だと思う。
- ・条件は必要だが、疲れた時に一年間に3～5日ほど自由に休める制度が必要だと思う。
- ・体調が悪かったり、生理前や生理中で気分が悪く辛いとき部活や学校を休みたいと思う。しかし、「生理

がつらくて休みたい」と言ったら母親は「いいよ」と言ってくれるが、父親や教師、周りの友達などから否定的なことを言われ、結果的に休めなくなってしまった。そのようなことをなくすために、男性にも生理のつらさを理解してもらうこと、休むことへの理解を深めること、休みやすくするための環境を整備することがとても大切だと思う。

【意見を表し、参加する権利】

- ・いやなことは嫌と言える権利が大切だと思う。
- ・人と対等に話せる権利が大切だと思う。
- ・自由に意見を表すことはとても大事だと思う。これからの時代は大人だけでなく子どもの意見も積極的に取り入れていくべきだ。

【差別されない権利】

- ・差別されない権利はきちんと大切にしてほしい。
- ・LGBTQ+やセクシャルマイノリティを抱える子どもにとっても優しい条例を作してほしい。
- ・子どもだからって差別しないでほしい。

【その他、大切な子どもの権利に対する意見】

- ・「子どもにとって大切な子どもの権利」に書かれているような権利は当たり前のようで実は守られていなかったり、それについて苦しんでいる人は年齢を問わずたくさんいると思う。
- ・多くの中学校でブラック校則が多く、友達からも言われるので、安心して生きる権利や自分らしく育つ権利として変えてほしい。
- ・望まれない妊娠として中絶で生命を失う胎児の生きる権利も守る必要があると思う。
- ・疲れたとき、図書館に行ける権利が良い。
- ・学ぶ権利は既にあるが、親の貧富格差で大学進学できない家庭支援はどうするのか。私学の授業料免除まで貧しくない家庭で、実際には私立大学の学費を出せない家庭が多いそうだ。将来の借金になる奨学金(給付型は年収で対象外)があるが、学ぶ権利の前で、親の貧富の差で借金のある人と無い人が生じて良いのでしょうか。実際の生活実感からの活動をお願いしたい。
- ・条例案は本当に現状を変える事ができるのか。
- ・休むための仕組みが必要と書いてあるけど、どのような仕組みがあるのか、差別されない権利とあるが具体的な対策はあるのか。

4. 子どもの居場所

遊具やボールで遊べる公園や、遊んだり勉強したりできる施設(居場所)がほしいという意見が多くありました。また、特に小学校高学年や中学生からは年代によって遊び方が違うため、専用の場所がほしいという意見もありました。子どもたちが自由に遊べる場所、安心して過ごせる場所を求める意見もありました。

《主な意見》

【公園】

- ・遊具がたくさんある公園をつくってほしい。

- ・安全に遊べるように公園を多くほしい。
- ・怪我をせず、のびのび遊べるように、小学生と中高生が遊ぶ公園を分けてほしい。
- ・大きい年の子ども、小さい年の子どもそれぞれが優先される曜日、時間、場所の制定を希望する。
- ・コロナ禍では大きいスポーツ用のグラウンドがないと練習も試合もできずつらかったので、市営グラウンドを作って欲しい。
- ・ボールが使える場所を増やしてほしい。

【あそび場・居場所】

- ・遊ぶ場所が少なくなっているので、遊び場を増やしてほしい。
- ・子どもたちだけで予約や登録などをしなくても勉強をしたり、教え合ったりできる施設がほしい。
- ・雨の日でも遊べる居場所がほしい。
- ・いじめられて苦しんでいる人が安心できる居場所がほしい。
- ・コミセンに小学校高学年や中学生が自由に出入りでき気軽に遊べる部屋や施設がほしい。
- ・小学校高学年から中学生は、遠くに行くこともできず、遊ぶところが少ないので、中学生が思いっきり遊べるような場所を作してほしい。
- ・子どもだからといって、大人よりもルールを厳しくしないでほしい。

【学校等】

- ・長期休業中に学校で友達とスポーツしたり勉強を教えてくれる場所がほしい。
- ・習い事をしたいが、お金がないので、部活を充実してほしい。
- ・自分らしく生きられるようにするのに、なんで学校ではやることが決まっているのか。
- ・学校など社会の場で居場所を作ることが大事だと思う。

【その他】

- ・子どもにとっては自分の居場所があるということが一番安心する。
- ・自分たちがゆったり落ち着いたり、のんびりと過ごせる場所が減っているので、みんなが楽しめる行事を増やしてほしい。

5. 子どもが意見を表したり参加すること

年代問わず、「大人と対等に、子どもの意見も聞いてほしい」という意見が多く寄せられました。そのほか、自分に関わることは自分で決めたいという意見や、学校内においても、子どもの意見を聞いてほしいという意見もありました。政治の授業を受けた小学六年生からは、子どもも政治に関わりたいという意見も多く挙げられました。

《主な意見》

【子どもが意見を表すことは良いことだ】

- ・大人には、思いつかなかった意見とかも出るからいいと思う。
- ・大人が子どもの意見を尊重し、しっかり子どもと向き合ったという経験は、子どもにとっても今後の人生に大きく関わると思う。

【参加したい】

- ・ムサカツなどの活動をもうちょっと多く行った方が良い。
- ・各学校の子ども代表が、話し合いをするなどの機会を作ったほうが良い。
- ・子どもが意見を表し、もっと政治に関わっていけるようになれば良い。

【自分のことは自分で決めたい】

- ・将来について親や先生など年上の人からのアドバイスはほしいけど、自分の将来は自分で決めたい。
- ・学校の指定服に関して、着たい人は自由服を着ればよいし、指定服を着たい人は着ればよい。
自分が望む格好をしたい。
- ・中学校では、お化粧はだめ、肌の露出は避けるなどあるが、自分がしたい格好をすれば良いことなのではないか。また、学校の指定服を着ることで、個性が失われたり、気候に合わず、変な感じがしたりしてしまう。
- ・子どもはこれから先、社会の歯車として働いていく。その歯車には大きさは決まっているが、動く場所、動く長さ、歯車一つひとつの形は僕達子どもたちが決めることであり、学校で習う勉強や社交性もまた、学校ではなく、子どもが決めることだ。
- ・子どもはできるだけ自由に楽しい生活をしたい。親にあれやりにさいこれやりにさいと言われるとストレスが溜まる。

【意見を言える機会や仕組みをつくってほしい】

- ・もう少し自由に子どもが意見を発信できるように意見箱やホームページを作ったり、月1～2回程度アンケートをとってほしい。
- ・市の政策や計画に子どもの意見を聞くことはいいと思う。
- ・子ども達が自由に意見を言える場所を設けることが必要だ。
- ・小学生でも「Teens ムサカツ」のように意見を実行委員として自由に言える場がほしい。
- ・子どもの意見を反映できるように、子どもたちのためのディスカッション企画が効果的ではないか。
- ・子どもが地域活動にもっと関わられるような企画を増やしてほしい。

【大人と対等に話し合いたい】

- ・子どもは親に対して自分の意見を言えないので子どもと大人が対等な立場になって親とも話し合えるようにしたい。
- ・大人だけでなく、子ども自身の意見を表したりできるようにした方が良い。
- ・子どもが大人になる過程で、大人の意見や主観を押し付けることによって、その子どもが大人になった時に同じようなことをしてしまうと悪循環になるので良くない。子どもの意見を否定せず尊重できる大人が、将来を担う子どもの良いお手本となると思う。
- ・大人がルールを守っていないのに、子どもばかりに言う。
- ・大変なことだけ子どもに任せる。
- ・子どもなのと言われることが嫌い。なぜ子どもはやっちゃいけないとかなどを決めつけられないといけないのかわからない。できるだけ子どものやりたいことなどを優先的にやることもいいと思う。
- ・「子どもだから」と、自分の話を聞いてくれないという話もよく聞いていたので、やはりすべての子どもに権利が必要だと思う。この条例により、不満の声が無くなると良いなと思う。

【学校等】

- ・いじめや差別などをなくし、学校の皆が仲良く安心して学校生活を送れるようなルールを子どもの意見を聞きながら作ってほしい。
- ・授業内で自分の意見を積極的に発信できるような環境をつくることでみんなで学びを築けるようにしてほしい(発言できない人を減らし授業を楽しく学ぶこと)。
- ・学校内において、より生徒の意見が反映されるような場を設けてほしい。
- ・子どもが先生に自分の意見を言えるような雰囲気を作してほしい。

6. 子どもの安心・安全

小学校5・6年生や中学生1年生からの意見が多くありました。虐待・暴力については、防ぐための方法や起きてしまったときの対応についての意見が多くありました。また、子どもの安全のため、交通事故等が起きないようにするための対策についても多くの意見が出されました。また、子どもが安心して生きるためにはその環境をつくり、大人が守っていく必要があるという意見もありました。

《主な意見》

【虐待・暴力の防止】

- ・大人の子どもに対する暴力的な発言や暴力を防止する。
- ・いじめ、虐待を防ぐために学校や保育園の先生に最低でも2ヶ月に一回はいじめや虐待がなかったか聞き込みをする。
- ・いじめや虐待などが起きたときに子どもが大人に相談することができないときにどういう対応をするのか
- ・成績が悪いと、親から虐待を受けてしまい、心が傷つくことがある。
- ・親から虐待を受けることもあり、子どもは疲れているのだから、もう少し休む時間がほしい。
- ・虐待への罰を重くして虐待を早くなくさないといけない。
- ・最近はいじめや教師による体罰等といったこともよく耳にするので、より子どもの生きやすい環境づくりも必要。

【事故防止】

- ・複雑な曲がり角などでは事故などが起こりやすいので安全に通れるようにするために、カーブミラーなどの設備を増やしてほしい。
- ・交通事故が起こりにくくするために、車を運転するときは自分の身の安全や心を確認してから運転するようにしてほしい。
- ・夜に道が暗いと危ないため街灯をつけてほしい。
- ・信号の青の時間が短く、小さい子どもや足の悪い人が渡り切るのが大変で最悪事故につながる可能性がある。
- ・ケガをしたり、障害があっても安心して暮らすために、エスカレーターやエレベータを色々なところに設置してほしい。
- ・自転車で車道を走るときに車とぶつかりそうになることがあるため、自転車専用の道を作るなど車と自転車が通る道を分けてほしい。

【その他】

- ・ちゃんと生きられないと、大人になれないかもしれないし、遊ぶことも、学ぶこともできないので、安心して生きる権利が、必要だと思う。
- ・大人は、子どもの居場所を守り、子どもが安心、安全に生きていける環境をつくり、守ってほしい。
- ・バスでマスクをしない人がいるが、大勢の人がいる公共交通機関ではマスクの着用を義務付けたほうがいい。
- ・ポイ捨てをやめさせる。
- ・世の中には、悪い大人、正しいことがわからず大人になってしまった子ども、守られるべき命が守られなかった子どもなどが多くいるので、子どもの権利や自由そして、安全を守ることは、絶対に大切なことだと思う。

7. 子どもの権利を知ること

「子どもの権利について知ることは大切」「子どもの権利について教えたり考えたりする機会をつくってほしい」などの意見がありました。

《主な意見》

- ・自分に関わる「子どもの権利」を知ることができた。
- ・子どもの権利を知るために、学校などで授業をするなどしてほしい。
- ・学校で授業をするなど、子どもの権利について聞ける環境をつくった方がいい。
- ・子どもの権利を広めて、知っていくことは大切だと思った。
- ・大人たちもこの条約、条例があることを伝えてほしい。
- ・チラシだけではなくポスターや、動画、インターネット、新聞などで広めたらよいと思う。
- ・幼いうちから子どもの権利を伝えていくことは大切だと思う。
- ・大人だけが動いていて子どもには浸透しない可能性が高いのではないかな。特に小学生以下の子どもたちは情報源が少ないので、条例の存在とその意味をきちんと伝えていき、意味のある条例になれば良いなと思う。

8. いじめを止めること

「いじめられたときに相談できる時間や場所があるといい」「いじめのない安心できる場所をどうやってつくるのか」などの意見がありました。また、いじめをなくすことやいじめが起きたときの対応についても意見がありました。

《主な意見》

【相談】

- ・相談窓口まで行くのは勇気がいるので、相談しやすい場所をつくってほしい。
- ・一人一人に相談できる時間をつくることや相談するところをつくってほしい。
- ・相談を受けた人は、「子どもの秘密を守る」がいいと思う。
- ・例えば、話すのは嫌な人が相談できるように、学校に手紙で出せる箱をおいたりしたらいい
- ・窓口設置は、既存の子ども向け窓口が「失敗」のため新たに設置するのか。既存のシステム、SOS ダイヤル、児童相談所、子ども家庭支援センターなどがダメな理由と反省を明確にしてから、新しく窓口を設置し

てほしい。

【いじめをなくす】

- ・学校をいじめのない安心できる場にしていく方がいい。
- ・学校のいじめのない安心できる場をどうつくるのか知りたい。
- ・いじめを止めることを条例として発表してほしい。
- ・いじめはやめようと学校が言っても全然いじめをやめない人がいるのでその人達に注意をしたり、親にその事を言ったりしたほうがいい。
- ・いじめを無くすために学校全体に張り紙をすればいい。
- ・いじめ、虐待を防ぐために学校や保育園の先生に最低でも2ヶ月に一回はいじめや虐待がなかったか聞き込みをする。
- ・いじめている人が反省して自分から「もうしない」と決めなければ解決できないから、いじめられた側が「いじめを受けている」と言っていたら周りの人がしっかりいじめっ子を見張っている必要があるのではないか。
- ・いじめについてのことは、すごく深刻なことなので、もっとしっかりと体制を整えてほしい。
- ・いくら教材や専門授業で意識したように見えても、激しすぎるいじめが描かれている事が多いので、本当のいじめはどこからなのか、そしてどういうものなのかということをしっかり学ぶ機会があったほうがしっかり意識することができるのではないか。

【いじめが起きたとき】

- ・いじめが起きたとき、それをだれかだけが抱えこまないように、教育委員会などに適切な報告がいくような組織をつくってほしい。
- ・実際にいじめは治らないから、いじめかなと思ったら大人がすぐにやさしく止める事が一番大事。
- ・いじめてきた人にちゃんと人を傷つけているということを自覚してもらいたい。
- ・いじめをしてしまう人もストレスや悩みを抱えているかもしれないので、心のケアをできるようにしたほうが良いと思う。

【その他】

- ・いじめだけでなく、ちょっとした意地悪、嫌がらせや陰口などを間接的に聞いて誰かが傷つくような行為をなくせるような武蔵野市にしてほしい。
- ・本人はいじめと感じていないけれど他人から見たらいじめということが多発している。
- ・青少年の引きこもりはいじめが主なきっかけであると思うので、若年層の引きこもりに対する支援も考慮に入れてもいいと思う。

9. 子どもの相談

子どもが相談しやすいように、相談方法の工夫が必要という意見や、相談窓口でなく、先生など身近な大人等に相談したい、秘密を守ってほしいという意見が寄せられました。

《主な意見》

【賛成】

- ・いじめなど深刻な問題が起きたら、気軽に相談することができる場所があるといい。
- ・私達子どもは子どもの権利を深く知り、少しでも、「これって正しいことなのかな？」と疑問に感じたら子どもだけで利用できる相談所があるといいなと思う。
- ・公共施設で相談などもできてとてもいいと思う。
- ・いじめは無くならないと思うので安心感のある相談所があるといいと思う。

【疑問・懸念など】

- ・相談できる場所があったところで殆ど使われないと思う。
- ・知らないに人に、困っています、助けてなどは、言わないと思う。困ったときは、友達やお母さん、お父さんに相談しましょう、などを呼びかけたほうが良いのでは。
- ・オンブズマンはクレーマーにちゃんと意見できないと思う。絵に描いた餅にオンブズマンという利権に税金が使われるだけだと思う。

【相談の手法を工夫してほしい】

- ・学校や市役所などの施設に相談するのは、なかなか難しいので、市や学校から PC でアンケートを送ってもらえれば相談しやすい。
- ・相談に関しては電話だけとかではなく、他にも色々な手段(インターネット上のチャットや手紙、メール等)で相談できるようにしたほうが良い。
- ・「子どもの相談」では、本当に落ち込んで、何もできなくなっている子は、相談場所にもいけないと思うから、そういう時にどうするか、決めてほしい。
- ・話すことが嫌な人も相談できるように、学校に手紙で出せる箱を置くと良いと思う。
- ・名前や小学校や年齢も(顔なども)相談をする相手にも言わない無料の電話の相談窓口なども必要だと思う。

【気軽に相談したい】

- ・市の相談窓口まで直接行くことは勇気があることだから、もう少し相談しやすい場所を作って欲しい。
- ・困ってはいないけど、もっと気軽に相談できるようにしたらいい。例えば、一ヶ月に一回、相談室に困っていること以外でも、お話しに行くなど。
- ・もっと身近にいつでも誰でも相談できる場所を作って欲しい。

【積極的に広報周知してほしい】

- ・市に相談だと規模が大きくて話せない子も出てくるからそこが具体的にどこなのか伝えることが大切だと思う。
- ・また子どもが相談できる場所があるということをもっと広く広めることが大切だと感じた。

【秘密を守ってほしい】

- ・子どもの相談内容は個人の情報だから、相談を受けた人は子どもの秘密を守るようにするのがいいと思う。
- ・言わないでほしいと言ったこと以外のことも秘密にしてほしい。

【相談窓口以外に相談できる人・場所がほしい】

- ・子どもは、1人で抱え込むことが多いので、親や近くの大人が気づき、声をかけてあげることが大切だと思う。
- ・相談窓口には相談しづらいので、まずはスクールカウンセラーや先生への相談などから始めればよいと思う。
- ・カウンセラーに話しかけられない人がいるかも知れないから、先生などが少しだけ声をかけるなどしたほうが良いと思う。
- ・困っている子ども同士で気軽に話せるところも作ったほうがよいと思う。

【その他】

- ・とても良いと思うが、もし自分の心の中だけで閉じ込めて窓口などで話しにくい人がいたらどうするの
かも書いてほしい。
- ・困っていても、先生と相談している姿を見られたくないから学校で相談しにくいとおもっている人がい
る。

【疑問】

- ・相談は誰でも行っていいのか

10. すべての子どもへの支援

小学校6年生～中学生から、様々な環境や状況にある子ども一人ひとりにあった支援を求める声が寄せられました。

《主な意見》

- ・子どもは、一人一人にあった支援を平等に受けることができれば良い。
- ・苦しい子ども(ヤングケアラー)などに対する生活の支援があったほうが良いと思う。
- ・色々な子どもが他の子どもの特徴的な行動や、障害のある人の気持ちをしっかり考えられていく子ども
たちになるのを支援したほうが良いと思う。
- ・日本には母子家庭の貧困が増えていると聞いたので一人ひとりにあった支援を受けることはとても大
切だと思う。

11. おとなになるための支援

大人として生きていく将来を見据えたうえで、より自信をもって社会で生きていくための支援を求め
る意見が寄せられました。

《主な意見》

- ・子どもの権利には色々なものがあり子どものときにたくさん学びおとなになって立派になることが目的
ではないかと思う。
- ・おとなになるための支援ってどんなことをするのか気になる。
- ・子どもが大人になるときに、自信を持って社会で生きていくための支援を受けること。
- ・子どもが大人になるために税金や仕事(職業)、法律やメディアリテラシーについて詳しく教える教室を

開くのがいいと思う。

・学校や社会は、安全な生活や素晴らしい人生を自立するまでは、後に社会の一員となる子どもを守り、その子どもがいつかおとなになり、権利を守らせる、守る立場になる。

・18 歳成人になり自由が増える一方、契約など責任が伴うため、世間のことを知らずになんとなく成人することが少し不安なので、成人になることについてよく理解できる場が増えたらいいと思う。

12. 条例の考えを実現するための取り組み

条例の考えを実現させてほしい、条例の考えに基づき具体的に取り組んでほしい、という意見が寄せられました。

《主な意見》

- ・早く条例の考えを実現させてほしい。
- ・これからも子どもが安心できるような施設や取り組みができるといいなと思う。
- ・素晴らしい条例だが、すべての子ども達に実現させるのはとても難しいことで、どうすれば、すべての子ども達が権利を持てるのか、考えることが大切だと思う。
- ・条例が実行しないと意味がないので、子どもが全員平等・安心安全な生活をおくれるようにこの条例、考えを実現させる取り組みが大事だと思う。
- ・条例の考えを実現するための取り組みは具体的にどのようなことをしているかが可視化できるようにしたらどうか。

13. 大人の役割

親をはじめとした周りの大人に意見を尊重してほしいという意見や、大人が協力して子どもを守ってほしいという意見が寄せられました。

《主な意見》

【学校等の育ち学ぶ施設】

- ・お母さん お父さんを休ませてほしい。先生達の人数を増やして、先生達が頑張ればよいと思う。
- ・先生も一人一人大切にできるように、幼稚園・保育園・小学校・中学校の先生の人数を増やしてほしい。保護者と子どもの悩みを聞ける人数してほしい。
- ・一番身近な教師の方々について、教師はこのような権利を率先して考えてくれる存在だと感じていたが、教師の中には自分が率先して行っている「良いこと」を子どもに押し付けたり(特に生活面)、自分が生徒に対して偉いと勘違いしているという方もいるように感じる。隠していても、たまに本性が出ることもあり、それで生徒が傷ついても、他の先生からは「普段怒ったりしない先生を怒らせるようなことしたんだな」で片付いているのではないか。
- ・近頃いじめの学校側の対応が不適切だというニュースを見たので良いと思う。

【家庭】

- ・最近の親は子どもの意思を尊重しない親が多いのでそこもどうにかした方が生きやすくなる。

【その他】

- ・未来のことなどを分けわからない親の操り人形ではない、自由な環境にしてほしい。
- ・子どもの権利は、大人が知っていないと意味がない。
- ・子どものことをよく見ても子どもが思っていることが出来ていない。
- ・大人が色々と子どもを守ってくれるのはすごくいいことだと思う。
- ・市、事業者、学校、家庭が協力して、子どもを守っていけるようになれば良い。
- ・特に大人の協力が必要だと思う。

14. その他

子どもの権利について、疑問や懸念の声もありました。また、日常の生活のなかで感じる大人に対する思いも出されました。

《主な意見》

【広報】

- ・「子どもの権利条約」について知っている人があまりいなかったし、もし武蔵野市の新聞に載せていたとしても子どもは読まないと思うので、ポスターにして学校に掲示したら良い。
- ・難しい言葉で書かない(伝えない)方が良いと思う。小さい子からお年寄りの方までの市民全体でわかってもらえるようにするためには誰にでもわかる言葉でわかりやすく伝えてほしいと思う。

【学校等】

- ・無意味な校則がたくさんある。
- ・勉強に影響する練習の多さの部活を辞める権利はないのか。
- ・ルールを作るのはいいが学校での生活や部活に影響するようなことはやめてほしい。
- ・あゆみで成績を決めることはやめてほしい。
- ・体力測定などで運動神経を決めることはやめてほしい。

【疑問・懸念など】

- ・条例は、作りすぎでは大人を束縛するかもしれないので、行き過ぎは良くないと思う
- ・最近権利を利用して悪いことをする子ども(「何もしていないのに〇〇〇にいじめられてる!」などと叫び散らす)ということを知ったことがある。この権利を作ることには、何かしら悪用する人もいるということも頭に入れておいたほうがいいかもしれない。
- ・子どもの権利でのルールを決めることは良いことで、子どもの大きい争いなどはなくなると思う。しかし、そのルールがたくさんあると逆に子どもたちがいろいろ迷惑になってしまうので本当に作っていいかは、迷ってしまう。
- ・子どもの権利を守る活動は大切。聞こえの良い表面的な条例文の作成にとどまらず、具体的な内容を作って欲しい。配布された条例前文や条文の内容は憲法や児童向けの法律を子ども向けに簡単な言葉に置き換え、書き直しているだけに感じる。
- ・もっといい街を作るためにも子どものことは子どもが一番良くわかっているので武蔵野市の子ども全員にアンケートをとるべきだ
- ・子どもの権利条約は「18歳未満の子ども」が対象だが、「18歳」にはまだ高校3年生の人も含まれている。いくら成人といっても、高校生はまだ親に頼らないといけなことが沢山あるし、他の大人に対してかな

り弱い位置にいると感じる。大人より弱い子どもを守るための権利は、法律上は大人だとしても、18歳の高校生まで持てるようにするべきではないか。条約自体は、世界の多くの成人「18歳」より低い年齢の人に向けられたもので、海外ではその年齢で自立しているのかもしれないが、日本は日本に合わせたものを作るべきで、それは武蔵野市の条例もそうだと思う。

【その他】

・自動ドアの設置、自転車登校の許可、トイレの自動洗浄装置の設置、更衣室の用意、まちのごみ箱設置、路上喫煙禁止などの具体的な意見。

2. むさしのクレスコーレからの意見

むさしのクレスコーレは、武蔵野市教育支援課が NPO 法人文化学習協同ネットワークに委託して運営する、市内の不登校の中学生のための「もうひとつの居場所」で2020年7月に開所した。

「こどものけんりってなあに？」第1号を見て、中学生がマインドマップの作成などを行った。

《子どもからの意見》

メンバーたちからは、「つらいときは休んでもよいということを知ることが大事」「子どもに関係のあることを決めるときは、子どもの意見を聴き、意見を大切にする」「いじめが起きた時に、それを解決するための仕組みを整える」などが「大事なことではないか」という意見が挙がった。

・マインドマップで出された主な意見

子どもの居場所	クレスコーレが家から遠い一家の近所にあつたらいい 親の理解がないと行けない 有料だと行けない人もいる — 無料の場所が増えてほしい 学校に行きたくない時に、近所のおばちゃんちに行ってたよー地域の人 * <先生だけでなく 学校以外にもいろんなおとながいてもいいかも>
休む権利	休んじゃダメだと思っていた 小学校に無理して通って、バーンとなった 行かないでいいほかの場所がある
いじめ	いじめがないというのはむりなのでは？ 絶対無理かな？ SNS でのいじめ対応難しい どうしたらいいんだろう？ せめて、いじめが起きたときの対処の仕組みがほしい いじめられても、ガマンして学校に行くか、死ぬしかない ……そういうことがあると元に戻るのは難しい… ぶつかったときにまわりの手助けがほしい 話を聞く 見守る それができるだけの人が足りない 先生じゃムリ 申し訳ないと思っちゃう 先生にも余裕が欲しい 子どもの権利だけじゃない おとなの権利も * <先生だけでなく 学校以外にもいろんなおとながいてもいいかも>

* 両方をつなげて表現していること

[illegible]

中間報告の内容として、「休む権利」「子どもが安心して、自分らしくいられるための居場所をつくる」ということが明記されていること、不登校の居場所のスタッフとして、とてもうれしく、ありがたく感じました。

ぜひ今回の取り組みを続けていただき、子どもたちの想いが反映された条例案になりますよう、微力ながら応援しております。

16

3. 中高生世代ワークショップ Teens ムサカツからの意見

令和4年6月12日に Teens ムサカツ実行委員会第1回実行委員会を開催し、中高生世代30名が参加し、「こどものけんりってなあに？」第1号を見て、5つのグループに分かれて、どんな項目が気になったり大切だと思ったか、またその理由や思ったことなどについて、グループごとに意見交換を行った。

《意見》

【前文】

- ・ 子どもたちの安心が大切。そのために人とつながること、他人との関わりが必要。

【子どもにとって大切な子どもの権利】

- ・ 遊ぶことは大切。楽しいことに向き合うことで社会に出ても集中力を養うことができる。
- ・ 大人が考える子どもの権利ではなく、子ども自身が考える権利について知りたい。自分らしくのびのび暮らせる環境を、周りの人たちに作りだしてほしい。
- ・ 「安心して生きる権利」について。安心する環境は自分だけで整えることはできない、周りの人と協力して自分らしくいられる居場所を作り出していくべきでないか。その人の安心する居場所をつくるためには、その人のことを知ることが大切。
- ・ 本人しか分からない要望を聞く必要がある。子どもが悩みや考えを相談できる環境が重要。
- ・ 「休む権利」があるならば、学校の欠席について体調不良やケガによるものと、学校に行きたくないという理由では何かしらの区別をした方が良いのではないか。
- ・ 子どもがつらいとき休むことも大切だが、学校自体が環境を変える対策も重要。
- ・ いじめを気軽に相談できる場が大事。
- ・ 「先生に言われている」感じの授業ではなく、自分から学ぶ教育に形式を変える。
- ・ 公立の学校と私立の学校の間の授業の内容や環境の格差をなくす。
- ・ 基本的な権利だからこそ、当たり前のようにみえる権利が守られているか見直すべき。

【すべての子への支援】

- ・ 個性に合わせた支援が必要。具体的にどのような支援があるのか気になった。
- ・ 支援が依存にならないようにするのも大事。

【おとなになるための支援】

- ・ 子どものころに支援を受けられたかで大きく人生は変わる。教育はもちろん、大人になるための支援は大切。
- ・ 大人になるまでにお金がかかる。低所得世帯への支援を用意したり、わかりやすい制度にする。

【子どもの居場所】

- ・ ひとりひとりの状況を知って改善するのが大切。どのような形で居場所を作るのか気になった。
- ・ 楽しめる、相談できるだけでなく、精神的に休む場所や悪い雰囲気の改善も大切。
- ・ 夜間に子ども以外の人が使った後に、何か危険な物が落ちていたら危ない。
- ・ 家に自分の居場所がない子どももいる。もっと勉強や遊びができる居場所を増やしたほうがいい。

- ・ 空間だけでなく、心の拠り所としての居場所も必要だと思う。

【子どもの権利を知ること】

- ・ 子どもの権利を知らないと子どもの権利侵害に気づかない。知ることが大切。
- ・ 子どもが子どもの権利を知る機会が少ない。子どもにも学校で子どもの権利を学べる機会をつくる。
- ・ 大人も子どもの権利を知ることが大切。市民の目に触れるように周知が必要。
- ・ 大人の理解が必要だからより多くの人が子どもの権利を知るべき。現状理解や改善案がより多く出て客観的に物事が見られるようになる。
- ・ 大人が知ることによって子どもへの接し方も変わる。虐待なども減ると思う。
- ・ チラシなどで市民の目に触れる工夫をすべき。
- ・ 問題に対してしっかりと対応しない人もいる。対策の重要性を大人にも周知していく必要がある。
- ・ 「子ども権利の日」を作るとは、知名度を上げるのに最適。家庭と学校が積極的に動くことで、より良い案が出るようになると思った。
- ・ 知るとは自分のもつ権利を知る機会になる。ありのままの自分を相手に伝えることができ、自信を持ち、成長していくうえで大切である。

【子どもの安心・安全】

- ・ 安心して生きることは自分らしく生きるうえで必要。
- ・ 周りからの圧力を受けずに、もっと自分らしく生きたい。理解を広げるために経験者から話を聴くことも大切。
- ・ 遊具などの注意書きをひらがなにする。
- ・ 差別について、(中間報告の中で)はっきり書いたほうがいい。

【子どもが意見を表したり参加したりすること】

- ・ 大人ではなく未来を担う子どもの意見を反映してほしい。子どもが話し合える機会が必要。
- ・ 意見を表したり参加したりできる「子ども」は何歳から？
- ・ 意見の伝え方を小さいころから教育として教わることも必要。
- ・ 子どもが意見を発信するには、ムサカツやアンケート、学校での話し合いを活用すべき。
- ・ 子どもの意見が市政にどう活かされているか明確にわかるとよい。

【いじめを止めること】

- ・ 安心して生活する上で大切。条例の内容をもっと具体的に書いてほしい。
- ・ 相談のときは、「秘密を守ること」が大切。いじめのアンケートを匿名にすべき。
- ・ 気軽に話せる相談先がほしい。
- ・ 精神的な拠り所がいくつかあると安心。先生の対応がいじめを止める鍵になる。
- ・ 「いじめを止めること」というタイトルが気になる。いじめを止めるというより、そもそもいじめをなくすことを考えてほしい。
- ・ いじめとじゃれ合いの境界について考えるべき。いじめに関する教育をしっかりとしてほしい。
- ・ 解決するための仕組みを整えることがとても大切。

- ・ いじめが解決することで苦しんでいた当人やその家族が救われる。
- ・ いじめの何がいけないのかきちんと理解できていない人もいると思うため、自分事として考えられる取り組みや、市と学校と家庭が協力する必要がある。
- ・ いじめの予防(起きる前の対策)をする。いじめが起きてから対策を打っても根本的な解決にはならないと考える。
- ・ 「いじめ」は「権利を傷つける行為」。
- ・ いじめた側のメンタルケアも必要。

【子どもの相談】

- ・ 悩みは早めに相談したほうがいいけど不安。
- ・ 市の相談窓口は堅苦しいイメージがある。もっと気軽に相談できる場がほしい。
- ・ 相談されたことは秘密にしてほしい。どこまで秘密を守ってくれるのか、明らかにしてほしい。
- ・ 不登校の問題には、スクールカウンセラーとの協力が必要。
- ・ 身近な相談員を知らない。身近な相談員とは具体的にどのような人なのか。